

「キラリ！三瓶☆夏☆キャンプ」

1 趣 旨

日本海（海拔 0 m）から三瓶山頂（標高 1126m）までの道のり（約 45km）を、中継点で宿泊しながら、踏破することを目指す。この体験を通して参加児童に、自ら困難に挑戦し、やり遂げようとする力を養うとともに、家族と離れ、同年齢の仲間と集団生活をする中で、仲間の大切さや規範意識、集団との関わり方について気づかせる。また、活動の舞台となる三瓶山や石見銀山道をはじめ、三瓶周辺地域の自然・歴史・文化への興味・関心を深め、自然保護意識を高めることをねらいとしている。

2 事業の概要

(1) 期 日：平成 30 年 8 月 12 日（日）～18 日（土）【6 泊 7 日】

(2) 参加者：小学生 20 名（4 年生 7 名，5 年生 7 名，6 年生 6 名）※募集 20 名

青年ボランティア 11 名（島根大学生 9 名，島根県立大学生 1 名，鳥取環境大学生 1 名）

(3) 主な日程

・平成 30 年 6 月 26 日（火）：事前説明会（趣旨説明，プログラム素案紹介）

・平成 30 年 6 月 30 日（土）～7 月 1 日（日）：

事前踏査①（道具点検・準備，海岸の安全確認と救命訓練 等）

・平成 30 年 7 月 13 日（金）～16 日（月）：

事前踏査②（熱中症予防対策講義，銀山道の安全確認，三瓶山登山道の安全確認 等）

・平成 30 年 8 月 11 日（土）：前日準備

	8 月 12 日（日）	8 月 13 日（月）	8 月 14 日（火）	8 月 15 日（水）
6:00		起床	起床 テント干し	起床 身辺整理
8:00		朝食（バイキング） 楯島キャンプ場へ移動 テント設営（楯島キャンプ場）	朝食（野外炊飯） テント撤収	朝食（野外炊飯）
10:00	受付・開会式 アイスブレイク	1st ステップ 沖泊（おきどまり）港	2nd ステップ 沖泊～大森のまち	3rd ステップ 大森～粕淵のまち
12:00	昼食（バイキング） ～旅の準備をしよう～ ・班ミーティング ・きずなの旗づくり ・キャンプ道具準備	～銀の積出し港で 食料を調達しよう～ ・海での安全確認 ・海での活動 昼食（弁当） ・海で食糧調達	～沖泊（おきどまり） から大森の町を めざそう～ ・約 15km を歩く。 昼食（弁当）	～大森の町から粕淵 の町をめざそう～ ・やなしお道を歩こう ・約 18km を歩く。 昼食（弁当）
14:00				
16:00			大森小学校	テント設営（カヌーの里おおち）
18:00	夕食（バイキング） 入浴	夕食（野外炊飯）	夕食（野外炊飯）	夕食（野外炊飯）
20:00	計画確認・丁銀作り ふりかえり	入浴（温泉津温泉・薬師湯） ふりかえり	入浴（湯迫温泉） ふりかえり	入浴（ゴールデンユートピア おおち） ふりかえり
22:00	就寝（宿泊棟）	就寝（テント泊）	就寝（大森小体育館泊）	就寝（テント泊）
	8 月 16 日（木）	8 月 17 日（金）	8 月 18 日（土）	
6:00	起床 テント干し 朝食（野外炊飯）	起床 身辺整理 朝食（野外炊飯）	起床 朝のつどい 朝食（バイキング）	
8:00	テント撤収		片づけ 昼食（バイキング）	
10:00	4th ステップ 粕淵～志学のまち	5th ステップ 三瓶山登山	～旅を終えて～ 全行程をふり返る	
12:00	～粕淵から三瓶ふもとの まち（志学）をめざそう～ ・約 8 km を歩く。 昼食（弁当） ・志学の町たんけん ・登山計画	～仲間と力を合わせ山頂 に到達せよ～ ・グループで決めた登山 コースを登る。 昼食（弁当）		
14:00				
16:00	志学小中学校		閉会式・解散	
18:00				
20:00	夕食（野外炊飯） 入浴（三瓶温泉：亀の湯） ふりかえり	夕食（野外炊飯 BBQ） 入浴 ふりかえり		
22:00	就寝（志学小中体育館泊）	就寝（セミナーハウス）		

3 事業の内容

(1) 事業の特色

仲間と共に、野外炊飯、テント泊、海での活動、登山など、自然の中での体験や、三瓶山・石見銀山遺跡などの歴史や文化に触れる6泊7日の集団生活を行うことで、目標に向かって挑戦し、困難を自分たちで解決する力を養うことを目指した。

(2) プログラムデザインと企画のポイント

日本海（海拔0m）をスタートして三瓶山頂（標高1126m）までを目指す。その際、温泉津・沖泊道とやなしお道の石見銀山街道を通るコースの設定をした。初日に、石見銀山遺跡についての学習を行い、丁銀キーホルダーを作成した。参加児童に「櫛島キャンプ場をスタートし、家に帰るまで丁銀を運ぶ。」というストーリーを設定することで、参加児童が、目標を明確にもてるようにした。また、石見銀山街道や街並みを歩く際に、現地解説を行い、地域の歴史への関心が高まるようにした。最後のチャレンジになる三瓶山登山では、グループごとに、登山コースを決め、男三瓶山頂を目指した。これまで一緒に活動してきたグループと力を合わせて登山することで、グループの絆を深められるようにした。

4 成果と課題

※本事業では、青年ボランティアを「学生スタッフ」と呼んでいる。

項目	回答	満足	やや満足	やや不満	不満
6泊7日のキャンプはどうでしたか		89% (17人)	11% (2人)	0	0
プログラム内容はどうでしたか		79% (15人)	21% (4人)	0	0
時間的にはどうでしたか		63% (12人)	32% (6人)	5% (1人)	0
職員の関わりはどうでしたか		84% (16人)	16% (3人)	0	0
学生スタッフの関わりはどうでしたか。		74% (14人)	26% (5人)	0	0

○小学生アンケートの記述：実施後のアンケートより

- ・初めは、緊張して話せなかったけど、しゃべりかけてくれて、話し始めて、日がたつにつれて、だんだんしゃべれるようになりました。このキャンプでは、「協力」「助け合い」「考える」「話し合う」いろんなことを学びました。協力すればするほど大きな力になって、山を登るときも、ご飯を作るときもみんなと協力してできました。助け合えば一人ではできないこともできます。考えれば、いい行動ができるし、たくさん答えができます。そして、話し合えば、考えたことをみんなに言って、よりいい意見、答えが生まれます。私にとって、この「キラリ！三瓶☆夏☆キャンプ」はいろいろなことを体験できた、いい1週間でした。
- ・最初は知らない友達と仲良くなれるか少し不安だったけれど、みんなが楽しく接してくれて、とても仲良くなれました。みんなや学生スタッフとどんどん話すようになり、とても楽しいキャンプでした。僕が一番心に残ったのは、友達と協力することでした。18km歩いたり、三瓶山に登ったりする時は、友達と励まし合って、無事たどりつくことができました。また、友達の大切さや挑戦する心をもてるようになり、成長につながると思いました。これからの学校生活でも、このキャンプで学んだことを思い出しながら、生活していきたいです。

○小学生アンケートの記述：実施2カ月後のアンケートより

- ・キャンプが終わって、前は人見知りがあったけど、今は、いろんな人と話せるようになりました。友達と協力したり、友達を気遣ったりすることができるようになったと感じます。
- ・私は、今まで、家での仕事を、お母さんに任せっきりで、手伝いも自分から進んですることは少なく、お母さんを楽にさせる時間が少なかったです。けれど、キャンプに参加すると、自分から積極的に手伝いをしたり、自分一人でご飯を作ったりすることが多くなったので、お母さんを楽にさせる時間も多くなりました。
- ・このキャンプに参加して、仲間と協力することができるようになりました。一緒に料理をしたり、テントをたてたり、山に登ったりして、たくさんの人と協力すれば、早く、楽しくいろいろなこと

ができると思いましたが。その代わりに、意見が分かれたり、食い違ったりすることもたくさんありましたが、それを解決していくことで、自分が成長したと思います。

○保護者アンケートの記述：実施2カ月後のアンケートより

- ・一度のキャンプですぐに生活が変わるといことは難しいですが、何かの時に、「あっ、これキャンプでやった。」とか「知ってる。」という声が出たりするので、体験させてもらったことは、確実に残っているなど感じます。
- ・今までもしっかりとした性格でしたが、変化といえば、自分の思いを素直に口に出して相手に伝えることが上手になり、言葉遣いもしっかりしたなど感じました。
- ・友人（特に異学年の子）との接し方に悩むことがありましたが、友人との接し方に、距離が縮まったり、前よりも積極的に発表したりできるようになったと感じました。

○青年ボランティアの記述：実施後のアンケートより

- ・一人でいたり、泣き出したりしていた子が、日を重ねるごとに成長していく様子が見られました。子ども同士の距離もどんどん近づいて行き、それゆえに、けんかも起きたけれど、自分達だけで解決しており、距離を置いたところから見ていて感心させられました。

《 成 果 》

- ・6泊7日の長期のキャンプだからこそ、児童の成長の様子が実感できる。初対面の緊張感と、過酷なプログラム内容に不安を感じていた児童が、日を追うたびに、元気さを増し、友達や青年ボランティアとの関わりを深めていった。1日の体験を終え、振り返りを行うごとに、自分の成長を実感し自信を深めた結果だと考える。また、関係が深まったからこそ、けんかや思い違いが生じ、そして、解決することで、より強い絆へとつなげることができた。
- ・事前説明会、事前踏査、本番での毎日の振り返りで、本キャンプの「目的」「目標」「活動内容」「参加児童の様子・対応」等について、職員と青年ボランティアとの間で共通認識を図ることで、参加児童の自主的な活動、課題解決の場面等での、声掛けや見守り、支援につなげることができた。
- ・本事業に関わる職員、青年ボランティアは、事前に「海岸の安全確認と救命訓練」「熱中症予防対策講義」を受け学ぶことで、本番では、参加児童の体調に気を配り、リスクを意識しながら活動するなど、安全への対応を図ることができた。

《 課 題 》

- ・昨年度の5泊6日のキャンプから、1日延ばした6泊7日のキャンプになった。長く感じたという児童もいたが、ほとんどの児童は、満足できる期間となったようだ。時間的には、お風呂の時間をもう少し長くしてほしいという意見がいくつかあった。昨年度の反省もあり、1日の時間は、振り返りの時間を含めて、ゆとりをもって終えることができた。しかし、全行程を歩き、入浴は、近隣の入浴施設まで移動したので、満足のいく時間を確保できなかった。困難を克服することを優先させれば、今回の日程でよいが、高温注意情報で活動の制限を呼びかけられることもある。熱中症のリスクを避けるためにも、日程の調整が必要である。
- ・長期キャンプを実施する上では、気象、活動場所、参加児童の体調等、常にリスクを意識し、危機管理を徹底しなければならない。今回、移動中に雷雨に遭遇したり、体調不良を訴えたりする児童がいた。避難場所を確保したり、早めに休養したりすることで、危険を回避し、予防することができた。しかし、今後も天候の変化や緊急時の対応について、適切に対処できるように、職員、青年ボランティア、関係機関等との連携をより一層図っていきたい。



海の活動



石見銀山街道



野外炊飯・テント泊

(企画指導専門職 田邊 治生)